

2年連続受賞

日本心臓リハビリテーション学会四国地方会参加報告

今年3月2日・3日に香川県高松市で開催された、日本心臓リハビリテーション学会第7回四国地方会の参加報告をさせていただきます。

公私ともにお付き合いあるKKR高松病院心臓血管病センター松元先生が会長を務められたこともあり、当院からは一般演題演者2名に加えて飯田薬剤師、谷脇栄養士と筆者がシンポジストとして参加し計5演題を発表しました。

超高齢化社会の到来による、心不全患者さんの急増は心不全パンデミックと呼ばれています。様々な原因で心疾患に罹患された患者さんが、日常生活を安定して過ごせるために心臓リハビリテーションの役割は徐々に大きくなってきており、多職種の協力により患者さんと関わる包括的心臓リハビリテーションが主流となっています。今回は医師2名・理学療法士1名・薬剤師1名・管理栄養士1名・看護師5名、総勢10名で参加しました。

また、間藤看護師が発表した、心疾患患者における抑うつ状態の関連因子に関する報告は優秀演題賞を受賞しました。昨年の当学会では矢野理学療法士が最優秀演題賞を受賞しましたので当院からは2年連続の受賞になります。

心臓リハビリテーションに関わる医療スタッフ



松元会長（後列右から3人目）と参加者
前列右から3人目が筆者

の日ごろの地道な活動を労うとともに、診療業務の中で経験した問題点・疑問点に前向きに取り組む姿勢を誇らしく思っています。

来年3月には第8回四国地方会を筆者が会長で開催する予定です。学会テーマは四国心リハー協調とその先へ—Advance through collaboration: charting the course forwardとさせていただきます。具体的な準備はこれからとなりますが、実りある学会となるように取り組んでいきたいと思っています。

特命副院長 船田 淳一